

第3号 STK会報

発行所
香川県善通寺市
金蔵寺町1298-1
0877-63-3121

2013/09/30

小豆島・内海地区漁場 利用協定協議会が発足

以前より問題視されていた小豆島内海地区での漁業者と



第1回内海漁場利用協定協議会
会議室の様子

会には内海町漁業協同組合の漁業者ならびに遊漁者関係

で瀬戸内遊漁船釣り団体協議会（STK）、香川県と岡山県のマリーナ関係者、オプザーバーとして丸亀市漁業協同組合、栗島漁業協同組合、香川県水産課、小豆島町役場、岡山県海面利用協議会委員らが出席しました。

会議はまず役員選出が行われ会長に濱崎文男・内海漁協組合長、副会長には福本優・瀬戸内遊漁船釣り団体協議会

遊漁者間のトラブル。これを解決しようと七月四日に「第一回小豆島内海地区漁場利用協定協議会」が内海魚魚協同組合（小豆郡小豆島町苗羽）の会議室で開催されました。

漁場利用協定とは？

- ① 漁業者と遊漁者の相互理解促進を図る。
- ② 水産資源の枯渇化に歯止めをかける為、資源培養を図る。

る。（稚魚放流）

- ③ 同地区のローカルルールを作成し円滑な安全な漁場利用を図る。
- ④ ゴミ等を海域に投棄することなく環境保全を図る。



プレジャボートが押し寄せる福田地区

会長が選出されました。協議会に移り現状の報告から始まり今後の対応などが協議されました。協定締結までの具体的なスケジュールなどは次回協議会から協議していく方針です。

小豆島内海地区の漁場利用協定協議会発足は香川県内では初めての取り組みとなります。

小豆島内海地区の漁場利用協定締結後は順次、丸亀・多度津沖、荘内半島三崎沖でも利用協定に向けた協議会が各漁協とともに発足される運びとなっております。

漁業協定は漁業者と遊漁者が競合する漁場でトラブルの無い秩序ある操業を目指します。遊漁者の方に於かれましては協定についてご理解とご協力をお願いします。

STK主催

本年度もキジハタを放流

香川・岡山の3地区でマダイも

昨年度に小豆島・安田小学校児童等が稚魚放流を行ったキジハタが写真のように成長

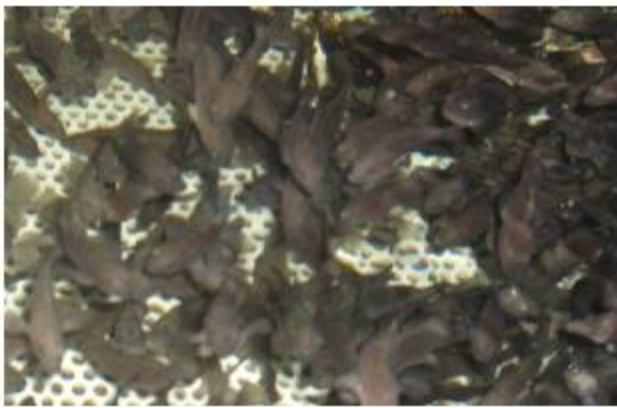
てられたものより、もう一回り大きくなっていると思われる

しました。放流時に稚魚二〇尾を持帰り水槽で飼育しました。三センチ余りと小さかったキジハタが一〇〜一五センチにまで成長しました。海に放されたキジハタは水槽で育

今年も小豆島沖・荘内半島沖・岡山地区で稚魚放流を行います。この行事には地元の子供たちに参加を呼び掛け海や魚に対し理解と関心を持ってもらい青少年育成の一助



1年間水槽で育てたキジハタ



今年の放流魚

になればと思っております。現在、放流魚のキジハタは水槽の中で放流されるのを待っています(写真)。キジハタは香川県水産試験場のご協力のもと準備しました。マダイの稚魚は水産会社にご協力をお願いしました。

まだまだ小さなSTKの放流活動ですがこれからも続け

秋の風物詩

イイダコのおでん

その昔からイイダコ(飯蛸)

と言えば壇の浦の合戦で有名な讃岐屋島のイイダコのおでん。遠く関東方面の方から「屋島には今でもイイダコのおでんは有るのですか？」と聞かれた事が有ります。その方は四十年前も前に屋島に來られたそうです。香川県のイイダコは高松〜多度津沖まで広範囲な漁場に恵まれています。年末から明け3月頃までイイ

行きたいと考えています。後1年もすれば水槽のキジハタも釣人の対象となる大きくなるでしょう。後一年水槽で育ててから放流予定です。マダイは水槽で大きく成りすぎて夏前に海へ放流しました。小さい魚が釣れた時は海へ放しましょう。

(飯・米粒のような卵)が入りいっそう美味しくなります。マナーを守って釣りますよう。



秋には沢山のイイダコが釣れます